

本大会申し合わせ事項・競技上の注意

(第 62 回全国聾学校卓球大会 大会事務局)

1 本大会の適用ルール等について

- (1) 現行の日本卓球ルールを適用する。
- (2) 試合は、全て 5 ゲームマッチ (3 ゲーム先取) で行う。
- (3) 本大会の申し合わせ事項による。

2 全試合タイムアウトルールは適用しない。

3 試合開始前の練習時間は 1 分以内とする。

4 促進ルールについて

ゲーム開始後ロスタイムを含めて 10 分経過しても終了しない場合は、促進ルールが適用される。ただし、10 分経過時の両競技者のポイントスコアの合計が、少なくとも 18 ポイントに達している場合には、促進ルールは適用されない。(両競技者から、促進ルールの要求があれば、促進ルールが適用される。)

5 ボール・ラバー・ラケット等について

- (1) 使用球は、(公財) 日本卓球協会公認の 40mm 3 スター ホワイトプラスチックボールを使用する。ニッタク (3 スタープレミアムクリーン 40+)、V I C T A S (VP40+)、バタフライ (R40+) を使用するが、希望するメーカーが違う場合は対戦ごとにトスで決定する。ボールは各コートに置いているものから選択する。
- (2) ラバーは、JTТА または ITTF が公認したことを示すロゴがなければ使用できない。
- (3) 接着剤を含むラバーの厚さが 4.0 mm を超えるものや、ラバーの表面の平坦性が損なわれているラケットは使用できない。
- (4) 外国製ラケット、JTТА 公認マークのないものを使用する場合は、使用許可申請書を記入の上、試合開始 30 分前までに審判長の許可を得なければならない。
- (5) 選手の責任において、揮発性有機溶剤を含んだ接着剤、ラバークリーナー等を使用してはならない。
- (6) ラバーの貼り替えは、ロビーの指定された場所で行うこと。

6 競技用服装等について

- (1) 服装は、JTТА の公認マーク付きのものを着用すること。団体戦に出場する競技者は、同じ服装で競技をしなければならない。ただし、ショーツ、スカートについては同系色であれば着用できる。連合チームについては、必ずしも同じ服装でなくてもよいこととする。
- (2) ゼッケンは定められた規格 (大きさは縦 20 cm、横 25 cm、選手名、所属名を明記) のもの、あるいは (公財) 日本卓球協会指定のものを使用する。

7 団体戦の競技方法について

- (1) 競技に使用するテーブルは 2 台で行う。
- (2) 試合は 4 単 1 複とし 3 試合先取で勝ちとする。試合順は 1 番複を若番コートで行い、2 ~ 5 番単とする。
1 番複試合終了後に 2・3 番単を行い、2・3 番単試合終了後に 4・5 番単の試合を以下の方法で行う。
 - ① 予選リーグにおいて、5 番単の試合が先に終了し、勝敗が決定した場合でも、4 番単の試合は最後まで行う。
 - ② 予選リーグにおいて、4 番単の試合が先に終了し、勝敗が決定した場合には、5 番単の試合はそのゲームが終了するまで行う。
 - ③ 決勝トーナメントにおいて、4・5 番単のいずれかが先に終了し、勝敗が決定した場合には、残りの試合はそのゲームが終了するまで行う。
 - ④ タイムテーブルの時間を超過しての試合の場合は、勝敗が決定し次第、ゲームの途中でも試合を止めることがある。

- (3) 1 番複は、2・3 番の選手だけで組むことはできない。
- (4) 2・3・4・5 番単は、同一の選手でオーダーを組むことはできない。
- (5) 3 人チームで対戦する場合は、2 番を棄権とし、オーダー用紙提出時にその旨を進行係に申し出る。
1 番複の試合終了後、3・4 番単の試合を行う。

※ 当日けが等で 3 人チームになった場合、そのチームの対戦相手がオーダー用紙を提出済みの場合は、オーダーの再提出を認める。

- (6) 3 人チーム対 3 人チームの対戦で 2 対 2 となった場合は、ゲーム率・ポイント率によって勝敗を決定する。ただし、ゲーム率・ポイント率とも同率になった場合は、代表者による 1 マッチの決定戦を行う。その代表者は、チームの申告で代表者を決定する。

(7) オーダー用紙の形式・提出について

- ① オーダー用紙は 3 枚複写とする。
- ② オーダー用紙はフルネームで記入し、オーダー提出所に提出する。
- ③ 第 1 試合のオーダー用紙は、1 日目・2 日目ともに朝 8 時 45 分までにオーダー提出所に提出する。
- ④ オーダー用紙は、オーダー提出所の担当者が記載内容を確認する。監督はその確認に立会い、確認後 1 枚を受け取る。
- ⑤ 第 2 試合以降は、勝敗が決定後直ちに次のオーダー用紙を記入し、オーダー提出所に提出する。

- (8) タイムテーブルの試合 10 分前にはベンチに集合する。審判の指示に従いコートに入り、若番コートに整列(若番チームがコートのベンチ側)する。対戦校の確認、挨拶を終えてから 1 番複の試合開始とする。

8 抗議について

- (1) 個人戦ではその選手に、団体戦では監督のみ抗議権を認める。ただし、監督不在の場合は主将に認める。
- (2) 主審または副審によるルール解釈に関してのみ審判長に確認できるが、主審または副審による事実の判定については、審判長に確認することはできない。

9 アドバイスについて

- (1) 団体戦において、競技者はベンチにいることを認められた誰からでもアドバイスを受けることができる。
- (2) 個人戦において、競技者はその試合の開始前に主審に登録された一人のアドバイザーからのみアドバイスを受けることができる。
- (3) 競技者は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみアドバイスを受けることができるが、練習時間終了時と試合開始の間はアドバイスを受けることはできない。
- (4) 手話通訳者がアドバイザーのアドバイスの内容を選手に伝えることは認める。

※ 本部が認めた手話通訳者は、ベンチの後ろに待機し、必要に応じて通訳に参加する。(大会事務局が提示した締切期日までに手話通訳申請を済ませた監督・コーチ及び選手には、監督会議時に大会事務局が決めた手話通訳者を割り当てることとする。その際の手話通訳者はビブスを着用する。)

10 競技中のベンチについて

- (1) 団体戦の場合は、監督 1 名・コーチ 1 名・選手 7 名以内とする。
- (2) 個人戦の場合は、登録された監督・コーチ及び選手のいずれか 1 名としてベンチにはいることができる。
- (3) 試合前にアドバイザーまたは選手が記録用紙のアドバイザー氏名欄に氏名を記入する。
- (4) アドバイザー(1 名)は、試合開始時に選手とともに入場する。また、試合中にベンチに入ることもできる。試合途中でコートを離れた場合でも、そのコートに復帰することができる。

- 11 競技の進行は原則、タイムテーブルによる。ただし、試合時間が遅延した場合は、コート変更を行うことがある。また、タイムテーブルより早く試合を行う場合もあるので、連絡に注意し指示に従うこととする。

- 12 本大会では、同一側ベンチとする。ベンチの位置は、本部に向かって右側に数字の若い番号のチーム・選手が入ることとする。

- 13 本大会は原則、ダブルスは 2 人、シングルスは 1 人審判で行う。各競技種目準決勝戦からは 2 審制で行う。